



氏名 鈴木 有紗
所属 文学部 文化構想学科
学年 3年

留学先 ヴッパタール大学
留学期間 2024/4/1~2024/9/3

留学レポート Study Abroad Report

私は初修外国語でドイツ語を履修した際にドイツ語ミュージカル(ウィーンミュージカル)に興味を持ち、ドイツの文化についてもっと学びたいと思い、ドイツへの留学を決めました。

ヴッパタールとは

ヴッパタールはノルトライン=ヴェストファーレン州に属する、緑が豊かな小さな街です。ドイツの西側に位置し、オランダやベルギーへは日帰りで行くことができます。現役最古の懸垂式モノレール(Schwebebahn)が有名です。また電車で 30 分ほどでケルンやデュッセルドルフに着きます。デュッセルドルフにはリトルトーキョーと呼ばれる、日本の食材や本を売る店が並ぶ通りがあります。値段は高いですが、日本食が恋しくなったときはデュッセルドルフで食べることができます。



ヴッパタール中央駅の近くを通る
Schwebebahn

寮について

私は大学から徒歩 5 分ほどの留学生向けの寮で生活しました。ヴッパタールの中央駅から寮までは歩いて 15 分ほどですが、想像以上に上り坂で、留学初日は重いスーツケースを引いて行くのが大変でした。寮は一人部屋で、専用シャワールームやトイレ、キッチンがあり、必要最低限の家具は揃っていたので、虫が多いことを除けば快適でした。ただ、寮全体でシャワーの温水が出なくなることが度々ありました。修理はしていたようですが改善されず、シャワーを浴びたい時間に浴びられないことがありました。キッチンの排水管が水漏れしたこともありましたが、それについては寮の管理人に頼むとすぐに直してくれました。

学校生活と授業

授業が始まるのは 4 月半ばだったので、それまでは IST という団体が開催している留学生向けのイベントにたくさん参加しました。イベントでは、キャンパスツアーや市内のバスツアーに参加したり、アジアンレストランに行ったり、ドイツの歴史博物館に行ったりしました。また、同じ時期にヴッパタールに到着した留学生のグループでピクニックにも行きました。

授業は、週4回のドイツ語コースと、文学部の授業を1つ取りました。ドイツ語コースは、レベルがA2~C1まであります。学期が始まる前に受けたクラス分けテストの結果によりB1クラスになったのですが、他の受講生は私よりレベルが高く、ついて行くのが大変でした。ドイツ語コースには様々な国籍、年齢層の人がおり、その人たちと一緒に授業を受けるのが新鮮でした。文学部の授業は英語で開講されており、私は英語で授業を受けること自体が初めてで、それに加えて少人数のセミナーで内容が難しく大変でしたが、良い勉強になりました。

留学生向けのイベントとして、週に1回19:00から大学でスタムティッシュが開催されており、そこでさまざまな留学生と会って話すことができました。留学生同士では英語で話すことが多かったですが、ドイツ語で話すこともありました。私は自分の語学力を上げるために行くようにしていました。はじめのうちは言葉に詰まることが多かったですが、徐々にすんなり話せるようになりました。色々な国から来た学生と話すのは新鮮で、多くの発見がありました。

ドイツの特徴

ドイツは日本よりもだいぶ気温が低いです。私はあまり気温の違いについて考えずに服を持ってきたので、持ってきた服では寒く、ドイツで買い足すことになりました。ドイツでは、日曜日と祝日は多くの店が閉まっており、不便に感じることもときどきありました。また、電車は常に遅延しているので、時間に余裕を持って行動する必要があります。ちなみに交通手段に関しては、学期が始まる前に留学先の大学を通してセメスターチケットを購入したので、このチケットでドイツ全土の高速列車(IC・ICE)を除いた電車やバスなどすべての公共交通機関を使うことができました。

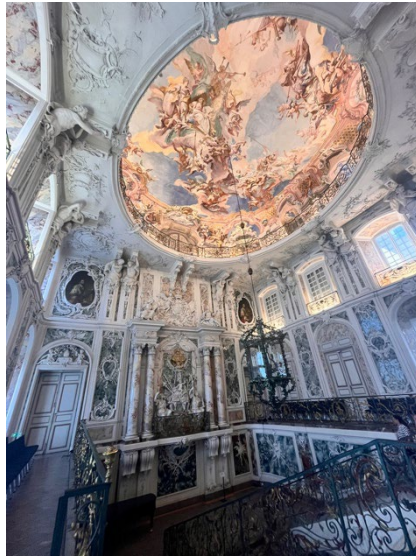
休日を利用してドイツ国内の様々な場所へ行きました。ミュージカルを生で観ることができ、ダンスと歌のレベルの高さに感動しました。ベルリンではイタリア語のオペラ『ドン・ジョヴァンニ』を観たのですが、ドイツ語と英語の字幕が舞台の上に表示されており、驚きました。そのおかげで、イタリア語がまったくわからない私でも話の内容を理解できました。また、留学生仲間と世界遺産を見に行ったり、サッカーの試合のパブリックビューイングに行ったりしました。他にも、ドイツ文化を学ぶために多くの博物館を訪れました。ドイツには映画の博物館や犯罪に関する博物館など、ユニークな博物館がたくさんあります。学生はこういった施設に割引あるいは無料で訪れることができるので、とてもありがたかったです。



ミュージカル『ダンス・オブ・ヴァンパイア』(上)と『ムーラン・ルージュ!』(下)



ケルン大聖堂



ブルノのアウグストゥスブルク城



サッカーのパブリックビューイング会場(ドルトムント)

夏学期の授業が終了してから帰国まで時間があったので、近隣のヨーロッパ諸国にも旅行しました。史跡や宮殿などは、どこも写真で見るより迫力があり感動しました。ドイツからユーロ圏の国へは、2、3時間ほどで行くことができ、費用も日本からヨーロッパへ行くよりだいぶ安く旅行できます。この機会に多くのヨーロッパの国を訪れることができたのはとても良い経験だと感じています。

滞在許可証について

EU圏外からドイツへ留学する人の多くが苦労していたのは滞在許可証の取得です。90日以上ドイツに滞在する人は、滞在許可を申請する必要があります。私は留学する前に日本でビザを取得してからドイツに行ったので、滞在許可を申請する必要はないと思っていました。しかし実際には、ビザと滞在許可証は別物で（ビザはドイツへ再入国する際に使うもので、滞在許可証はドイツに滞在するために必要なもの）、私は滞在許可証を申請する必要がありました。90日が経つ直前で留学先大学の国際課の人が手続きをしてくれたのですが、私はドイツ国外に旅行する予定があったので、問題がないかわかるまでとても気を揉みました。ただ、ビザがあれば滞在許可証を持っていなくてもドイツに再入国できるので、ドイツ国外に旅行したい人は、日本でビザを取ってからドイツへ行くことをおすすめします。ただ、日本でビザを取るには予約が必要で、その予約を取るのが大変だったので、早めに準備しておく必要があります。

私は今回初めてヨーロッパへ行き、一人暮らしも初めてで、ドイツに到着したときはとても不安でした。ですが、意外とすぐに生活にも慣れ、1学期間の留学は過ぎてしまうととてもあっという間でした。日本では経験できないことが多くあり、とても中身の濃い1学期間でした。ドイツ文化についてたくさん学ぶことができ、もっとドイツ語を勉強してドイツで学びたいと思うようになりました。この経験を忘れず、これからの人生に活かしていきたいと思います。